

ランドデザインの検討における意見の整理

第6回協議会及び第4回懇談会の中で出し合っていた、ランドデザインに関するたくさんのご意見やご提案をもとに、協議会案として1つの案にとりまとめるために、考え方を整理しました。

		意見・提案の整理	ランドデザイン（協議会案）の考え方
テーマ		<ul style="list-style-type: none"> ● 人が中心 ● 安心して歩けるまち ● 国分寺の歴史の散歩道の出発点 ● 緑が共存するまち ● ここにしかない風景を守る・ここにしかない風景をつくる ● 人が集まる駅前の広場 ● 和やか・ほっとできる場所 ● エリアマネジメント ● どこよりも暮らしやすいまち ● 多様な世代・生活がふれあうまち ● 次世代に繋がるまち 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「回遊する」ー歩いて楽しいまちー ● 「風景をつくる」ー農地や緑との調和、緑と水の回廊・軸ー ● 「憩う・集う」ーコミュニティの交流の場、駅から降りて立ち寄りたくなる場の創出ー ● 「住みたい・住み続けたい」ー居住機能を主体とした都市機能の更新ー <p style="text-align: right;">をキーワードに、ランドデザインを考える。</p>
都市の骨格 (地区内の道路網)		<ul style="list-style-type: none"> ● 既存道路網を前提とし、部分改良 通過交通を許容する・しない(人中心か車中心か) 歩車分離・歩車共存 ● 新たな骨格をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 既存道路網を前提として改善。長所(通過交通が少なく歩きやすい)を活かす。 ● 歩車分離の駅へのアクセス道路を整備し、通過交通をシフトさせる。 ● 地区内道路は、人中心の道路(歩車共存型道路・進入抑制および速度抑制対策を導入)とする。 ● 西国分寺全体を回遊する歩行者の動線・軸をつくる。 ● 駅前の歩行者広場と地区内の公共空間(公園等)の整備・再生を切り口として、都市の骨格を考える。
	歩行者広場と交通広場	<ul style="list-style-type: none"> ● 歩行者広場が重要 ● 歩行者広場の周りには飲食店やオープンカフェ ● 歩行者広場・交通広場・施設の配置については概ね4パターン ● 交通広場の構造については概ね3パターン ● 歩行者広場のデザインアイデアについては概ね3パターン 	<ul style="list-style-type: none"> ● 駅前の歩行者広場をまちのシンボルの1つとする。 ● 駅前の歩行者広場は、コミュニティと来街者の交流の場と位置づけ、駅と地区(コミュニティ)との連続性に配慮した位置とする。 ● 歩行者広場の詳細については、今後住民参加でデザインしていく。 ● 交通広場の構造については、今回の検討を基に事業費や整備手法等も踏まえながら、今後詳細設計していく。
土地利用		<ul style="list-style-type: none"> ● 4つのゾーンに分ける 	<ul style="list-style-type: none"> ● ゾーニングにより、駅前を中心に住宅以外の用途の立地を可能にするとともに、住宅地への影響を抑える。 ● 多様な世代が住み続けられるまちを目指し、戸建て住宅以外の居住スタイルを部分的に可能とする。 ● 歩いて楽しいまちを目指し、住宅地においても、住環境を悪化させない規模の飲食店等の立地も可能とする。
	駅前エリア	<ul style="list-style-type: none"> ● 高層～超高層建物主体 ● 広場を中心に中層建物程度 ● 低層の商店街 	<ul style="list-style-type: none"> ● 道路整備事業に伴う居住者の移転先を含め、駅前に一定程度の集積型の居住機能が必要となるが、本格的な人口減少社会に向けて、新たに作り出す住宅ストックについては慎重な判断が必要。 ● 地区の個性を印象付ける駅前とするには、歩行者広場とともに、界隈性のある飲食店街を活かしていきたい。 ● 駅前エリアについては、歩行者広場・交通広場等の公共空間、生活利便施設、事業実施に必要な一定程度の居住機能を整備し、かつ、界隈性のある飲食店街を育成することを目標とし、事業手法については、事業費の捻出方法も含め、今後詳細に検討していく。
特徴的な内容	農地	<ul style="list-style-type: none"> ● 地産地消系の小さな農の拠点をつくる ● イベントや地域のコミュニティ活動の場に ● できるだけ保全したいが、所有者の事情もある 	<ul style="list-style-type: none"> ● 農地があることが地区の魅力であり、コミュニティの資産である。 ● 維持保全方策を、様々な角度から継続して探っていく。 ● 生産緑地法の改正を踏まえ、農地所有者、コミュニティ、行政をはじめ多様な主体が連携した新たな農地経営方策についても検討していく。
	自転車	<ul style="list-style-type: none"> ● 自転車利用が多いので駐輪場は必要 ● 歩行者と自転車の分離 	<ul style="list-style-type: none"> ● 利用状況や需要推計を踏まえ、適正な駐輪台数を確保するとともに、適切な動線と配置についても検討する。 ● 駅へのアクセス道路に自転車レーンの設置を検討。自転車交通の集約化を推進。
	施設整備	<ul style="list-style-type: none"> ● 多目的文化ホール ● 複合型図書館 ● 市役所、市役所出張所 ● 保育園、高齢者福祉施設 ● コミュニティ施設 	<ul style="list-style-type: none"> ● 来街者を主対象とする施設は、アクセス性や、立地による効果を考慮し、駅前エリアに集約。 ● 誘致施設については、暮らしを楽しむ施設(店舗・飲食店等)、まちの個性(農・子育て・界隈性等)を印象付ける施設とし、近隣の既存施設との競合についても考慮する。 ● 地区中央にコミュニティの交流の場をつくる。
	駅周辺の4つのエリアの連携・役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ● 4つのエリアの個性の相乗・連携で、西国分寺全体を盛り上げる ● 北口周辺地区はすばらしい住宅地への玄関口 	<ul style="list-style-type: none"> ● 4つのエリアを回遊する歩行者動線をつくる。 ● 4つのエリアの役割・個性を踏まえて、北口周辺地区の担うべき役割を検討。